

大道芸アジア月報 2019年9月

Vol. 30, no. 9

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット(土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント)

■大阪・天保山海遊館広場 ■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場

■ヨコハマ大道芸(山下公園、グランモール公園、ジャックモール) <http://daidogeij.jp/> ■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/>

■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/ ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html> ■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

仙台れきみん秋まつり 11月3(日) 11:00~15:00 観覧無料

大沢田植え踊り、秋保・長袋の田植え踊り・川前の鹿踊剣舞との共演

問合せ 022-259-3956 (仙台歴史民俗資料館)

★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/> ○千葉ポートシアター(京葉線「千葉みなと」駅下車)

●1月より連日(火・水は休演) 開演時間は要確認

ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンス。

ジャグリングには、森田智博、ボンバンガー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演

問合せ・電話 050-5238-3533(イーストバジョン公演事務局)

△空転劇場 vol.23 <https://ja-jp.facebook.com/kuutentheater/> ○浅草・東洋館

●8月29(木) 19:30 開演(開場20分前)

山村祐理、SAME SAME、おこたんぺ、AYUMI、MAKi、SHOGUN、八幡雄士

一般¥3000、学生¥2000、当日¥3000(一般・学生とも)

チケット: <http://urx2.nu/B3zw>

△第22回ながの大道芸フェスティバル <https://www.facebook.com/naganodaidougei/> ○長野市・善光寺表参道、ほか

●9月7(土) 13:00~18:00

山本光洋、サンキュー手塚、クラウンボム、あっぱれ!吉沢屋、パレーンパフォーマーRay、ピエロのポッピーくん、飴細工・水木貴広、un-pa、プーリィ・ウーリィ・カンパニィ、雫(しずく)、Hi2、ピエロのパット君、加納真実、健山、足長カズマ、ハードパンチャーしんおうすけ、オペラララちゅうサン

△天宝座ワールドパフォーマンスフェスティバル2019 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/event/detail.php?id=12935>

●9月14(金)~16(日) ○大阪・天保山ハーバーヴィレッジ各所

MAGUS、張海輪、神奈月、なにこれ?劇団、ファンカッション、Witty Look、to R mansion、しょぎょ〜むじょ〜ブラザーズ、SEOPPI、桔梗ブラザーズ
フリー스타イラーNARI、KANAO、渡辺あきら、Shiva、Riki、Syan、Mr オクチ、風船職人池田君、けん玉師伊藤祐介、Leo、Ray、WAO!!、ZANGE、スーパーアイドル星まる、ideo2、LOTO、ミスターバード、ミス・サリバン、un-pa、プリコロハウス

△亀戸大道芸 2019vol.7 <https://kameidodaidougei.wixsite.com/daidogeij/> ○亀戸十三間通り商店街

●9月15(日)

△SAPPORO PERFORMANCE PARTY <https://sapporo-performance-party.jimdofree.com/> ○札幌市 札幌駅前通り地下歩行空間、北3条交差点、ほか

●9月15(土) 16(日)

SEOPPI、池田洋介、桔梗ブラザーズ、KANAO、吉川健斗、目黒陽介、ゼロコ、大道芸時雨、大道芸人 SATOYA、青い海、海賊カジオトーレ、鳥待ち少女、双子パフォーマーPLUTO

△第19回へブンアーティスト公開審査 www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/ ○池袋・東京芸術劇場広場

●9月17(火) 18(水) 10:30~17:15 パフォーマンス

9月19(木) 11:00~17:00 音楽

△コメディアン三雲いおり一人コントライブ「~あの手この手」 <https://www.facebook.com/ioriperformancegym/> ○藤 OurDelight

●9月21(土) 18:00

出演・三雲いおり

予約¥2000(当日¥2300) ワンドリンクオーダー制

問合せ 080-4169-0501(担当・よしかわ)

△第21回月潟大道芸フェスティバル <https://tsukigata-daidoge.com/> ○新潟市南区月潟地区商店街

●9月22(日) 10:30~

フレディーノ、Mr. ↓YOU↑、Hiro&AG、ピエトロニカ、桔梗ブラザーズ、道化師 LOTO、風船王ふーじー、idio2、ZANGE、ジェンガ金次郎、アストロノーツ Mark2

△第21回深川美奈市大道芸 <https://birakuichi.wixsite.com/birakuichi> ○深川江戸資料館通り

●9月22(日)

ハードパンチャーしんのすけ、Hiroki、Mr. potato、サブリミット、蹴流波、東京コミックショー、おろしぼんづ、クラウンマイン、clown ものまる、clown レオ、舞夢男爵、もんぶち&Toko、招福、しろみときみ、壮之助、ソラと晴れ女、浅草十一寸、生き人形雪狐、音姫金魚、ケンハモたろう

△文化伝統芸能三題〜落語・講談・説経節〜 <http://www.onkogakkai.com/info.htm> ○埴保己一史料館2階講堂

●9月22(日) 13:00

説経節「安宅の関」若松若太夫、講談「若き日の保己一と根岸肥前守」宝井琴柑、落語・國學院大學落語研究会
入場無料

問合せ 03-3400-3226 (公益法人温故学会)

△立川南フェスタ2019 <http://tachikawa-minami.com/> ○立川駅南口商店街

●9月23(月・祝)

△高知大道芸フェス <https://www.facebook.com/DAIDOUGEI.KOCHI> ○高知市中心商店街

●9月28(土) 29(日)

Idio2、KANA∞、加納真実、桔梗ブラザーズ、シルヴブレ、セクシーDAVINCI、張海輪、Performer SYO!、三雲いおり、Mr. BUNBUN、吉川健斗、りずむらいす

△はこだて大道芸フェスティバル2019 <https://hakodate-daidougei.net/> ○金森倉庫イベント広場

●9月28(土) 29(日)

マジシャンDAIGO、大道芸おどけ面、マジシャンアッキー、大道芸時雨、カジオトーレ、双子パフォーマーPluto

△日本の語り芸を聴いてみよう・説経浄瑠璃「おぐり」 ○武蔵浦和コミュニティセンター

●9月29(日) 14:00~15:30

説経節・若松若太夫

会費¥500

問合せ・申し込み 048-844-7215 (武蔵浦和コミュニティセンター)

△まつもと街なか大道芸 <https://www.go-nmd.jp/> ○松本市

●9月29(日) 10:30~18:30

荒木巴、バーバラ村田、松鶴家天太、フレディーノ、ゼロコ、3ガガヘッズ、空転軌道、Los Ojillos Negros、竹内直 & Wagan Brothers

△たかまつ大道芸フェスタ2019 <https://www.machikadomusic.net/2019/08/24/たかまつ大道芸フェスタ2019/>

●10月5(土) 街角の大道芸 丸亀町一番街前ドーム、丸亀町スクエア前、丸亀町グリーンケヤキ広場、サンポート高松多目的広場ほか

●10月6(日) 港の大道芸 高松シンボルタワーデッキスガレリア、サンポート高松多目的広場、デッキスガレリア入口付近、JR高松駅前広場ほか
桔梗ブラザーズ、Witty Look、SUKE3&SYU、中国雑技芸術団、シルヴブレ、せせらぎ、Syan、うつしおみ、紙磨呂、加納真実、芸人まこと、Hibi★
Chazz-k、 juggler Laby、松元かなこ、STILTANGO、SU/SoLA Fire Dance

△頭とロ×デフラクト「妖怪ケマメ」 <https://www.kaat.jp/d/kemame> ○KAAAT神奈川芸術劇場 (大スタジオ)

●10月5(土) 12:00&17:00 / 6(日) 12:00&15:00

出演 渡辺尚、ギョーム・マルティネ

一般¥3000(ペア券¥5000)、当日¥3500

問合せ 0570-015-415 (チケットかながわ)

△女性による民俗芸能の継承「乙女文楽」 <http://www.puppet.or.jp/puppetArchives/entryarchive/otome1012.html> ○国立劇場小劇場

●10月12(土) 14:00

出演:ひとみ座乙女文楽 演目:「二人三番叟」「本朝二十四孝 奥庭狐火」「近頃河原の達引 堀川猿廻し」

¥3000

問合せ 044-777-2228

△世田谷アートタウン現代サーカス「地上の天使たち」 <https://setagaya-pt.jp/performances/20190710angels.html> ○世田谷パブリックシアター

●10月18(金) 19:30 / 19(土) 15:00 / 20(日) 15:00

カンパニー ルーブリエ、ラファエル・ボワテル

大人¥4000、子ども(4歳~高校生) ¥2000 (友の会、および、せたがやアーツカード会員割引あり)

問合せ 03-5432-1515 (世田谷パブリックシアター)

△世田谷アートタウン三茶 de 大道芸 <http://arttown.jp/> ○世田谷区・三軒茶屋かいわい

●10月19(土) 20(日)

△第42回大須大道町人祭 ○名古屋市・大須観音境内、大須商店街かいわい

●10月19(土) 20(日)

若林正の

食って極楽

意外! 美味な街・江戸川橋
・・・広東酒家・らくらく

先日無事に千秋楽を迎えた芝居、江戸川橋の劇場で二週間を過ごす長丁場だった。ふだん江戸川橋は、椿山荘での結婚式司会の仕事で時折下車する場所であったが、ただの通過地点以外の何物でもなかった。

しかし二週間通う内に、沢山の美味しい店がある穴場として認識されていったのだ。立ち食いの山吹蕎麦、モツ焼きのみつぼ、居酒屋のあんぱい、呑兵衛・・・。公演中幾度と通った中で、特にお気に入りになったのが「広東酒家・らくらく」という中華の店。かの MJ、マライヤ・キャリー、エアロスミスといった海外アーティストが出前を取ったり、来店したりという噂を聞いて入店したが、表は普通の中華屋なのに店内は広く清潔な高級感漂う雰囲気。

値段も一品料理はほとんど千円以下。ランチは料理2品に汁飯で¥700~900、しかも量が多くて美味しい。他にも味噌ラーメン¥700に¥250 足すと、飯と唐揚げ詰めた弁当箱が付いてくる。角煮¥850 は大皿の青菜にどっさり柔らかい豚肉が乗ってくるし、塩トマトサーワ ¥380 はさっぱりといくらでも飲める。結局昼も夜も、6 回ほど通ってしまった。うーむ、クセになる店だ!!
○蕨に欲しい中華屋と思った度・・・50ワカ!!

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 334

表現の不自由展・承前

上島敏昭

◆「表現の不自由展」中止の波紋

あいちトリエンナーレ 2019 の「表現の不自由展事件」はその後、ますます波紋を広げている。多くの美術家や作家の団体がつぎつぎと展示を「中止」したことに對する抗議声明を出す一方で、公的資金を投入する催しとしては「開催」したことが間違いだとする政治家や自治体の長、およびそれを支持する人たちも少なからず、いる。実際、名古屋市長河村たかしは「負担金 1 億 7100 万円のうち未払いの 3300 万円は不払いとする」との意向で、さきに国の補助金支払いについて言及していた官房長官菅義偉と協調すると発言している。

NHKの「クローズアップ現代」でも、9月6日に、この問題を取り上げた。この番組では、抗議のなかには、ガソリンで火をつけるからはじまって、保育園を襲うというような内容もあったと言ひ、とても展示公開をつづけられる状況ではなかったとしている。抗議は電話、FAXなどはもちろんだが、主流はSNSで、とくに某整形外科院長の発信はおおきな影響をおよぼしたようだ。しかし、電話もFAXもSNSも、「中止せよ」「保育園を襲うぞ」などと物騒な発言している人たちのほぼ全員、作品など見ていない。もちろん某整形外科院長も同様である。



「中止せよ」と叫ぶ人たちは、あいちトリエンナーレを応援する協賛企業にも矛先を向け、ある協賛企業には「商売できなくするぞ」「仕事なくなるぞ」という脅迫まがいのFAXや電話が殺到したともいい、じっさいに協賛をおりた企業もあるようだ。

彼らは政治的な表現は「中立」であるべきという常識的・良識的な物言いで、過度に政治的な表現は「中止すべし」というのだが、彼らが「中立でない」と判断した表現に対する攻撃や、その表現をつぶすための手段は、極めて非常識で、悪質で、執拗かつ陰湿である。

また「中立でない」とされる催しが、現在すでに公共の場からつぎつぎと締め出されているという実情もある。番組のなかでは次のような事例が示された。

「TPP反対のシンポジウム」「沖縄・辺野古の写真展」「憲法記念日の集会」「原発に関する市民活動」「平和のための戦争展」「原発被害の写真展」「憲法を考える集い」。

これらの事例を見る限り、「中立」というのは、政府の意向にそった催しという意味であり、そこからはずれたものは会場の使用「不許可」とされる。

有識者として出演していた「原爆の図丸木美術館」の岡村幸宣さんは「芸術作品の評価というのは長い時間をかけて多くの人の目に触れることで初めて、少しずつ確立されていく。それが今回、ごく一部の人の声によって中断されてしまったことをとても残念に思っています」と述べる。

また、日本文学研究者のロバート・キャンベルさんも「表現を通して社会を考えたり、あるいは変化を促したりすることは芸術の生命線」だといひ「多様な市民のそれぞれの立場をできるだけ均等に発信できる環境を整える、保障することが行政の責任だと考えます」と述べている。

この問題をうけて、あいちトリエンナーレの会場では、その後、芸術祭に参加した作家と市民が対話する催しも行われたといひ、その様子も映し出していた。番組の終わりで岡村さんは次のように述べているのが印象的だった。

「なぜ表現の自由が必要かということですね。自分と異なる歴史や文化から生まれてきた表現に触れることで、これまでこうだと思っていた世界が違って見えてくる、そういう可能性があるわけです。今、国境を越えて多くの人と交流していく時代の中で、そこに橋を架けて対話し、お互いの理解を促していく。その表現の力を信じるのがとても大事だと思っています」

◆権力と戦うための戦略

皮肉なことだが、「表現の不自由展」の中止問題は、いまの日本がいかにも「表現の不自由」な状態にあり、その息苦しさは日増しに強まっていることをあぶりだす結果になった。習近平の中国や金正恩の北朝鮮では、こんな表現をしたら死刑だ、日本は平和でいいじゃないかというような意見もあったが、2011年の東北地震および原発事故以降の日本は、中国や北朝鮮と思想的には正反対ではあっても、一党独裁・個人崇拜の方向にひた走っているように私には感じられる。

というより権力者というものは、思想とは関係なく、それに反対するもの・批判するものを叩き潰そうとするものなのだろう。自由の国であるはずのアメリカの大統領をみれば、権力者がいかにおぞましいかはよくわかる。としたら表現はつねに権力側から圧迫され、迫害され、踏みにじられる宿命にあり、表現とは権力者の顔色をうかがいながら行うしかないものなのかもしれない。

しかし、もっと気味が悪いのは、その権力者たちに迎合する者が少なからずいるということ。さらにいえば、表現者も

そちらにむけて表現していた方が楽チンだから、意識していなければ、知らず知らずのうちに、そちら側に取り込まれていく可能性が高いということ。このことは肝に銘じていなければいけないと思う。

とくに大道芸という表現は、権力者・行政執行者・その場所の顔役などの顔色を横目で見つ、演じる側面がある。そもそも、街頭で芸を演じてお金を頂戴するという行為は、さまざまな法律に抵触するか、抵触する可能性のある、法的には「不見識な」行為なのだから、そこを突かれないように、突かれたら上手にかわすようにやるのが求められる。じっさい、私の体験でも、依頼されて行っていた大道芸イベントでありながら、警察官がやってきて中止させられたこともある。そんなとき「権力と戦う」とか大見得切って騒ぐという方法もあったのかもしれないが、そんなことしてもその場でなんとかかなるとは思えず、結局、泣く泣く中止するしかなかった。

しかし、権力と戦って成果を得た事例がないわけではない。

以前にも紹介したが、当時の「周防猿まわしの会」が銀座でおこなった大道芸の強行は、権力と戦って、大道芸を実現させた数少ない成功例であろう。

1980年12月7日のこと。歩行者天国でにぎわう銀座に、突然、猿まわしが出現し、おどろく歩行人を前に、芸を披露した。



〈かわいい猿たちの「熱演」にたちまちあたりは黒山の人だかりとなったが、やがてパトカーが到着して解散命令。リーダー格の猿舞師は始末書を書かされるハメに・・・〉（「読売新聞」1980.12.08）とある。

このとき警察が猿まわしの大道芸を中止させたが、見物客は猿まわしの芸能者を応援した。〈子どもを連れて母親が「子どもがみたがっているのになぜいけないんですか」と言ったのをきっかけに「そうだ、そうだ」「警官は帰れ」などの声が次々にあがった・・・〉とある。警察側の説明として〈歩行者天国でのこうした活動は道路交通法七十七条一項四号に基づく都道路交通規則により禁止されている〉とし、猿まわしが銀座で大道芸として公演できる可能性は低い、とまとめている。

しかし、じっさいはこの事件のあと、警察は猿まわしの大道芸実演を止めるのに及び腰になり、最終的に赤尾敏さんやギリヤークニケ崎さんが、政治演説や街頭舞踊をやっていた数寄屋橋公園での大道芸については、この日以降は「黙認する」という形となって幕をおろした。つまり法律を力づくでこじ開けて、大道芸の実演を勝ち取ったのである。この事件の当事者であった、村崎修二さんや筑豊大介さんに話をきくと、これは事前にじゅうぶんに作戦を練ったうえでの強行実演で、マスコミや文化人なども連携した行動であり、不確定な部分はあったにせよ、勝算は十分あったので実力行使におよんだのだった。

美術に関していえば、赤瀬川原平さんの「千円札事件」なども「芸術表現とはなにか」を問う「直接行動」＝パフォーマンスとして、大きな成果をあげた。赤瀬川は当時「千円札」をモチーフとした「作品」をしばしば制作していたが、それが警察と司法の知るところとなり、ニセ札犯罪として書類送検された事件である。この事件は、のちに行われた「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」展（2013年）によれば、1964年から1966年にかけて彼らが行った「芸術活動」、およびその反響によって更にひろがった「芸術」と位置付けられている。

同展の図録によれば、「模倣千円札事件」「朝日新聞社に対する抗議イベント」「法廷における大博覧会」および「模倣千円札裁判」と件名を分けて解説されている。なかでも白眉は1966年8月10日の「法廷における大博覧会」で、裁判の冒頭陳述の証拠品として彼らの芸術作品が「東京地方裁判所第13号法廷」に陳列され、法廷はあたかも「美術館」となった。

それを「法廷における大博覧会」と称して「芸術作品」として記録しているのである。裁判自体は1970年、最高裁判決で赤瀬川の有罪（懲役3か月、執行猶予1年）が確定したものの、芸術と何か、お札とは何か、国家とは何か、などを考える「パフォーマンス」として、美術史上のエポックとなっている。

◆もう一つの「表現の不自由」展

さて、この「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」展の図録を見ていて、いままで見落としていたことに気が付いた。この一連の「千円札裁判」事件の一環として「表現の不自由」展と称する展覧会が、おこなわれていたのである。期日は1967年8月17日から22日。会場は銀座の村松画廊および赤坂の草月会館ホールである。〈千円札裁判の第一審の有罪判決を受け、控訴審に向けての資金作りを兼ねて、千円札事件懇親会が企画した展覧会。「千円札裁判の資料展示」、「被告赤瀬川原平の履歴作品展示」「賛同作家展示販売」が行われた。展覧会最終日（8月22日午後6時～）には、「芸術の不自由」展シンポジウムが草月会館ホールで開催された。内容は、第一部「千円札裁判からの報告」、第二部「シンポジウム「芸術は二度死ぬ」であった。〉図録によれば、この展示をハイレッド・センター（高松次郎・赤瀬川原平・中西夏之）の最終活動と位置付けている。

美術について素人の私は、まったく知らなかったが、現代美術の世界ではかなり知られた展覧会である。おそらく、2015年に練馬の小さな骨董画廊・ギャラリー古藤で「表現の不自由」展を行った実行委員会の面々も、今回、再度その展示をわざわざ再現させようとした「あいちトリエンナーレ2019」の裏方のひとびとも、当然、知っていたと思われる。

現実の「千円札裁判」で、被告・赤瀬川原平は有罪となった。そうしたリスクを負いながら、芸術とはなにかというテーマを、これ以上ない方法であぶり出した。これは赤瀬川ばかりでなく、ハイレッド・センターやその周囲の多くの支援者によって、はじめて成立した、非常に高度な、芸術活動であった。

今回の展示は、その名称を借用し、テーマ自体も「千円札裁判」と重なるところは大きい。でありながら、彼らは先例に何を学んだのだろう。私は疑問を持たざるをえない。主催者側は、あまりにもお粗末すぎる。